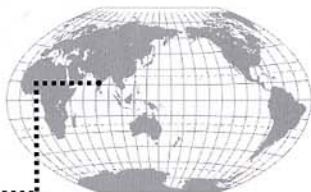


インド現代ファッション

杉本良男 (すぎもと よしお)
先端人類科学研究部



広大なサリーの世界

現在開催されている特別展「インド サリーの世界」には、おもに国立民族学博物館所蔵の資料が展示されている。これらの資料の大部分は二〇〇二年から二〇〇四年度の海外収集で集められたものである。

民博にはそれまで七〇点ほどのサリーが収蔵されていた。インド各地の、さまざまな技法をつかったサリーが収集されていたが、インドは広大な世界であるので、サリーの世界にもまた歴大なヴァリエーションがある。着方から、素材、技法まで地域による差、階層差、それに時代による流行などあつて、そのヴァリエーションは無数にあるといつてよい。こうした広大なサリーの世界を網羅するような収集は現実的でないが、せめ



著名者のファッション(チェンナイ)

て代表的な例をより広く集めたいというのが、今回の収集の出発点であった。

しかし、収集の計画を進めるあいだに、伝統的なサリー店を通じて製作、販売されているサリーだけでなく、インド出身のデザイナーによる作品も収集の対象とすることにした。これらのデザイナーは、サリーだけでなく、その他のインド的な衣装や、ウエスタン・スタイルの衣装、あるいは東西の融合したインド・ウエスタンなどの衣装を数多く作り出しており、それがまた、世界的に注目されているからである。こうして、サリーについては、伝統的なものだけでなく、現代的なものも、さらには、サリーだけでなく、代表的なデザイナーの作品も収集し、インドの現代ファッションの広がりをうかがえるようなコレクションをつくりたいと考えたのである。

両替に悩まされ

民博のコレクションでは、インド南部の資料が比較的少なかったため、すでに交流のあつたチェンナイ(マドラス)のサリー店を中心に収集をおこなうこととして、ほかにムンバイ(ボンベイ)、コルカタ(カルカッタ)、オリッサ州などで、地域の特徴的なサリーを収集することにした。くわえて、

通貨ルピーは、現在二・六円ほどの交換レートである。おもに使われている紙幣には、一〇ルピー、二〇ルピー、五〇ルピー、一〇〇ルピー、五〇〇ルピー、一〇〇〇ルピーとあるが、高額紙幣の

デリー、ムンバイ、コルカタ、バンガロールなどのブティックやスタジオで、有名デザイナーの作品を収集する計画を立てた。デザイナー作品の入手先は、出発に先立って、ウェブ・ページなどから拾ってリスト・アップしていた。そのさい、Eshwar Bhatia など、デザイナーとブティックの情報が集約されているページが役立つ。ただし、デザイナーの作品は、サリーのようにまとまった数を一度に購入することができない困難が予想された。じつさいデザイナー作品の収集には大いに難渋したものである。

最初に訪れたのは、ニューデリー郊外の高級住宅地、ハウス・カースにあるトップ・デザイナー、リトウ・クマールのブティックであった。リトウ・クマールは、インドでもっとも早くから世界的な名声を得たデザイナーだけに、大きな期待をもって出かけたものである。店内で目にした作品は期待に背かず、インド的な華やかさのなかに上品な趣味があらわれていて、かなりの数を購入した。だが、ここで第一の困難に遭遇することになった。

国立民族学博物館の収集は基本的に現金払いで、日本円を米ドルのトラベラーズ・チェックに両替し、さらにそれを現地通貨にするというややこしい手続きをとるのが普通である。インドのは想像を絶するつらさであった。

対面関係の重要さ

しかも、ウェブで集めた情報はあまり役に立たないという困難もあった。インドの大都市はここ二、三年、変化のスピードが加速し、郊外にどんどん新しい巨大なショッピング・モールなどが出現してきている。ファッションをふくめたライフスタイルには、日々恐ろしい勢いで変化の波がおそつている。わずかに二、三か月ほど前の情報も、すぐに古くなつてしまつていたのである。そのため、とくにデザイナーの作品を手に入れるのが困難を極めた。事前にチェックしてあつたブティックなどに連絡しても、住所を移して行くと先がわからないこともあつた。

それだけでなく、インドではなにをいふとおこなうにも、メールや電話では事がすすまず、じつさいその場所に行つて顔を合わせる事が不可欠になる。そこで収集の趣旨を説明し、納得してもらつた上でないと、十分な対応をしてもらえない。インドはいまIT産業で世界の注目を集めているが、情報化がとだけ進もうと、最終的には対面関係の重要さはかわつていない。インドに限らず、情報化やグローバル化が進めば進むほど、かえつて顔を合わせて話す重要さは増してくるのかもしれない。



デザイナーの工房(デリー)



糸を織る(オリッサ州バルガルヒ)



糸を染める(タミルナドゥ州ティルポーワナム)



サリーをたたむ(タミルナドゥ州クンパコーナム)